

中山間地域活性化活動のポイント

澁谷 功・芳賀陽登*

(秋田県農業試験場・*秋田県北秋田地域振興局)

The Point of Activation Activities in the Mountainous Area

Isao SHIBUYA and Hitomi HAGA*

(Akita Agricultural Experiment Station・*Akita Prefecture Kita-akita Regional Affairs Department)

1. はじめに

中山間地域の農村では、農家数、農家人口の減少と高齢化、後継者不足等、過疎化に伴う問題が拡大している。このため、特に中山間の条件不利地域では、農業にとどまらず、農村社会崩壊の危機的状況もみられ、対応策が急がれる。中山間地域の農村では、依然として農業が基幹的な産業であり、治水・治山等の公益的な機能維持にも農業が大きな役割を果たしている。公益的機能の維持でも、地域や農業の活性化が前提となる。

秋田農試では、中山間地域活性化の課題として、「農業支援を中心とする活性化センター、直売所活動」、「イベント・地域資源保全などの農業集落活動」の検討を実施してきた。そして、第42回東北農業研究において、「山間地域住民の意向からみた農業の継続と定着条件」、「農業センサスによる農業集落動向予測と診断」、第45回東北農業研究において「山間地域における小集落イベントの成功要因」を報告した。

本報告は、前2回の報告をふまえ、農業集落の諸活動を地域活性化の視点から評価し、集落のリーダーが指摘する諸種の提案をふまえ、地域活性化活動展開のポイントを提案する。

2. 集落活動の状況と活性化の判定

A村における農業集落では、青年会・老人クラブ・婦人会などの組織活動や、農業や農外事業などの就業に関する活動、祭典やイベントなどの多様な活動を直接・間接的に実施している。表1は、中山間地域に位置するA村、16集落における、こうした活動の有無と、活動の活発度、集落リーダーによる重要度の判定を、戸数が減少している集落と減少していない集落に分類して整理した。なお、ここでは便宜的に戸数変化のない集落を増加集落に含めた。

集落における諸活動では、生活支援、環境整備、公共事業などで行政機関の活動も多く、定住化に必須な基礎的活動を担っている。戸数増加集落と減少集落間では組織活動、青年、老人、婦人活動の格差が特に大きい。人数が大幅に減少している青年組織では、村全域でイベントを実施するなど、活動範囲を広域化する傾向も認められる¹⁾。また、集落内の農外事業所の有無にも格差が大きく、こうした活動が戸数の減少を抑制するなど、集落活性化の重要な要因となっている。

表1 A村における集落活動の状況と活性化の判定

		活動有無		活発度		活動の重要度		集落全体
		増加集落	減少集落	増加集落	減少集落	増加集落	減少集落	
組織活動	集落青年会の活動	○	△	○	○	2.1	0.7	1.3
	集落老人クラブの活動	○	△	○	○	0.3	0.0	0.1
	集落の若妻組織の活動	○	△	○	○	0.9	0.8	0.8
	集落の婦人組織の活動	○	△	○	○	0.6	0.2	0.4
就業活動	町内会・部落会の活動	○	○	○	○	1.9	2.3	2.1
	農事組合(JAの支部)活動	○	△	○	○	0.6	0.6	0.6
	営農集団の活動	△	△	○	○	0.9	0.2	0.5
	ミニバス、育苗センター	△	△	○	○	0.9	0.0	0.4
担い手	集落内の農外事業所	○	△	○	○	0.9	0.7	0.8
	通勤可能な雇用の満足度	○	○	○	○	1.9	2.4	2.2
	農林業の担い手	○	○	○	○	1.1	0.4	0.8
	集落活動の担い手	○	○	○	○	1.0	0.4	0.7
営農支援	専門的農業の後継者	△	△	○	○	0.7	0.3	0.5
	おおかたの家の後継者	○	○	○	○	0.7	0.8	0.8
	おおかたの後継者の結婚	○	○	○	○	2.0	1.9	1.9
	農作業の受委託	○	○	○	○	1.9	1.0	1.4
生活支援	農地の基盤整備	△	○	○	○	1.3	0.0	0.6
	活性化センターによる農地管理	○	○	○	○	1.3	0.7	0.9
	機械銀行・JAの農機具リース	△	△	△	△	0.7	0.0	0.3
	集団転作	△	△	○	○	0.3	0.9	0.6
環境整備	通学手段の確保	○	○	○	○	1.3	1.1	1.2
	通院に対する助成	△	○	○	○	1.6	0.6	1.0
	消防・救急体制の充実	○	○	○	○	1.3	1.1	1.2
	高齢者介護の充実	○	○	○	○	0.4	1.2	0.9
文化活動	子供の遊び場充実	○	△	○	○	0.3	0.0	0.1
	生活道路の除雪	○	○	○	○	1.4	1.1	1.3
	雪下ろしの支援	○	△	○	○	1.0	0.7	0.8
	集落排水の推進	○	○	○	○	1.3	1.2	1.3
生活改善	集落の用排水路管理	○	○	○	○	1.6	0.3	0.9
	道路の環境美化	○	○	○	○	0.3	0.4	0.4
	集落独自のお祭り	○	○	○	○	2.0	1.1	1.5
	イベント活動	△	△	○	○	1.0	1.0	1.0
公共事業	農作業体験ツアー・市民農園	△	△	○	△	0.7	0.2	0.4
	民宿	△	△	△	○	0.0	0.0	0.0
	地域特産物振興・産地直売	○	○	○	○	1.6	1.6	1.6
	伝統芸能の継承	△	△	○	○	0.7	0.3	0.5
公共事業	史跡・景観の保全整備	△	△	○	○	0.4	0.7	0.6
	地域食文化の伝承	△	△	○	○	0.4	0.0	0.2
	古いきまり、因習の改革	△	△	○	○	0.6	0.2	0.4
	冠婚葬祭の簡素化	△	○	○	○	2.0	1.7	1.8
公共事業	道路整備	○	○	△	○	2.1	1.7	1.9
	会館・施設整備	○	○	○	○	0.1	0.2	0.2
	河川整備	○	○	○	○	1.0	0.8	0.9
	森林整備	○	○	○	○	1.4	0.9	1.1
公共事業	直接支払制度	○	○	○	○	0.4	0.3	0.4

注1 活動の有無(集落率): ○=100%、△=50%以上、△=50%以下

2 活発度(活動のある集落): ○=活発、○=普通、△=不活発

3 重要度は、各分類の1位3点、2位2点、3位1点とした平均。

4 〇は、各分類中の重要度最大項目

文化活動、生活改善に関する活動集落は少ないが、実施集落については活発との評価である。

集落リーダーに、こうした集落活動を、地域活性化のための重要度をそれぞれの分類毎に、順位付けしてもらった。たとえば、組織活動の中では、「町内会・部落会」1位、「青年会」2位、「婦人組織」3位、の様にである。この重要度順位に1位3点、2位2点、3位1点とし、

加重平均得点で重要度を評価した。表の網掛けした活動は、各分類の中で重要度が最も高い項目である。組織活動の重要度では、「町内会・部落会」が2.1で最も高い。ただ増加集落の平均では、「青年会」の重要度が最も高く、「青年会」の有無、活発化が、活性化のカギを担うようにも思える。

就業活動では、「通勤可能な雇用の満足度」、担い手問題では「後継者の結婚」の重要度が高い。

集落リーダーが指摘する、農村問題、活性化のための意見・提案は大きく3類型に分類され、その第1は、経済的活力に関する産業基盤についてである。ここでは、活性化センターの運営改善、営農支援の充実、特産品開発、温泉活性化の提案などがある。

第2は、生活利便性に関する生活環境整備についてである。ここでは、道路整備、集落会館（公民館）、雪対策についての提言が出されている。

第3は、住民の組織活動についてである。この点では、集落が抱える山林、農用地、神社・公民館などの共有施設など地域の資源を保全する共同活動を継続するための発言が多い。

3. 地域活性化活動展開のポイント

集落活動、集落リーダーの意見をふまえ、農村・農業集落活性化のポイントをA村の事例で整理したのが図1である。中山間地域の活性化では、産業基盤（経済的活力）・生活環境整備（生活利便性）・組織活動（住民活動）の3要素を有機的に関連させながら、強化する必要がある。産業基盤では、中山間地域の特性を活かして、農業・林業・観光産業の振興が中核であり、対象地域ではこれらに活性化センターや直売場が重要な役割を果たしている。A村では、活性化センターが中心となって、村ぐるみで特産作物としてソバ生産に取り組み、これを「ソ

バ店」「ソバ加工」の開発と展開している。

生活環境整備では、コミュニティ施設・道路整備がポイントである。中山間地域で最も重視されるインフラは道路であり、住民の要望も多い。道路は、生活条件の基礎的な意味があり、開発によって基幹道路が一本通るだけで生活利便性が飛躍的に向上する事例もある。A村内では、1, 2集落がいわゆる条件不利の代表的な「行き止まり集落」であり、定住環境を改善するインフラ整備が急がれる。

組織活動では、共有財産の活用と維持・管理の共同活動、祭典などが地域の一体感を醸成している。A村では、村全体・小集落単位に各種イベントが実施され活性化のための住民活動への取り組みも積極的である¹⁾。

活性化の度合いが進んでいる村と、遅れている村の比較では、特に、産業基盤と組織活動に大きな格差がある。地場産業、観光産業、誘致企業など農外就労の場の格差は、地域活性化に大きく影響する。これに農業振興を含め、産業基盤の強化は活性化に最も効果的であるが、条件不利地域ということで困難な点でもある。

組織活動による活性化は、住民の意思によるところが大きいに組みやすい点である。代表的事例である、農地保全のための直接支払いの集落協定は、A村内全集落で実施されている。A村の場合、傾斜地を含め、より広い農用地を対象とする点に特徴がある。仮に、急傾斜に限定し、合意形成ができた一部集落のみの協定しか実施しない秋田県内の他地域とは、直接支払い事業の経済的規模に大きな格差がある。集落協定による森林整備活動でも同様の指摘ができる。

4. まとめ

中山間地域の活性化では、産業基盤（経済的活力）・生活環境整備（生活利便性）・組織活動（住民活動）の

3要素を有機的に関連させながら、強化する必要がある。当面できる部分からの実践が重要であり、住民組織活動の活発化、地域資源を活かした特産物の生産拡大による農業振興がポイントである。

参考文献

- 1) 澁谷功, 清野誠喜, 佐藤功. 2002. 山間地域における小集落イベントの成功要因. 東北農業研究第55号

